

# 大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議の主な概要(速報:未定稿)

令和2年3月12日(木)

## 1. 新型コロナウイルス感染症の現況

### ○朝野座長・砂川オブザーバーより、新型コロナウイルスの特徴や感染状況等について説明

- ・ 8割の患者は軽症、5%の患者が重症・重篤化、1～2%の患者が死亡。
- ・ 多くの感染者(約8割)は他人にうつすことがない。
- ・ 環境要因「換気が悪く」「人が密に集まって過ごす空間」「不特定多数の接触」がそろると集団感染を起こす。
- ・ 日本は小規模のクラスター感染が起こっているが、急激な患者数の増加の状況ではない。
- ・ イベント自粛などにより急激な患者数増加が抑制されている可能性。
- ・ 既知クラスターへは、全体像を把握し症例間のリンクを確認し、リンク不明例には過去の行動歴を収集し新たな曝露源の探知につなげる活動が必要。

### ○主な委員発言

- ・ ライブの発生から2週間経過していれば、環境要因次第ではあるが、参加していても発症していなければ感染していないという判断で対応している。
- ・ 基本は有症者が感染を媒介しており、無症状者からの感染は心配しなくてよい。
- ・ ライブクラスターについて、特定できる人への対応と不特定多数の人へは広報を行う府の取組はうまくいっており、良い事例。大阪でどんどん患者が見つまっているように見えるのはしっかり範囲を決めて発掘できているため。また、調査が進むごとにリンクが追える陽性者が増えている。

## 2. 感染状況を踏まえた今後の対応について

(イベントの中止・施設の休館についての今後の継続の是非、学校園の臨時休業の措置)

### ○事務局より、中止等措置の状況の説明と、国の専門家会議の考え方について説明

- ・ 国の専門家会議では、「換気の励行」「人の密度を下げる」「近距離での会話や発声、高唱を避ける」の3つの原則を出し、3/19頃を目途に、これまでの対策の効果について判断を示す予定。

### ○主な委員発言

- ・ イベントの再開について、不特定多数が共用で触れるようなものは接触感染のリスクがある。
- ・ 軽症の若者が街に出歩き、高齢者や疾患のある方に感染させる可能性があるので注意が必要。
- ・ 感染を防ぐ第一は、手洗いなどの予防。密閉空間等の状況が揃わないようにすることが大事。
- ・ 症状がある場合は参加しないなど、イベントの参加者への呼びかけが大事。
- ・ 学校等については、現在、学童保育や小学校での預かり保育で講じている対策と同等の感染症対策を講じ安全を担保したうえで、再開を検討してもよいのではないか。
- ・ 休校していても、家でゲームや外で遊び歩く場合があるので、学校でのコントロールが必要では。
- ・ 親がリスクとなる行動を取らないということも大事。

### 3. 今後の医療提供体制について

#### ○事務局より、感染症患者（陽性者）の増加を見据えた医療提供体制の確保について案を説明

- ・現在、陽性者について、無症状者・軽症者も含めて「感染症指定医療機関」及び「一般医療機関（帰国者・接触者外来）」に入院勧告し、国の退院基準に基づき退院させているが、今後、陽性者が増えてきた場合、公的医療機関や大学病院等での対応を行う。さらに増加の場合は、重症者への対応に重点を置き、無症状者・軽症者については、休床病床、廃止病棟の活用や宿泊施設の活用、自宅待機といった措置も念頭に置き、対応策を検討。
- ・これまで各保健所長が陽性者の入院調整を医療機関と個別に行っているが、感染症指定医療機関や10床程度以上の協力医療機関や基幹病院等を対象に、入院可能な空き病床を把握し、広域的に入院調整を行う「大阪府入院フォローアップセンター」を立ち上げる。

#### ○主な委員発言

- ・複数保健所からの照会対応が負担であったため、フォローアップセンターでの調整はありがたい。
- ・軽症者、無症状者は無理に入院させず、もっと早い段階から、自宅待機のほうがよいのでは。
- ・基本的には、フォローアップセンターには全面的に協力するが、病院によっては専門医がいないので、協力できるレベルは様々である。
- ・どのレベルの人を入院させるのか、またどういった順番で病床等を活用するのか議論が必要。
- ・公立病院への要請が先になるのは理解できるが、民間病院にも協力をしてもらうべき。
- ・マスクや防護服などの衛生材料が不足しているので、患者受入と同時に供給してほしい。
- ・陰圧室は一般病棟の中にあるが、陽性者と交差する可能性がある。その点、休眠病棟では交差が起らないが、スタッフをどうするのかといった問題がある。DMAT（災害派遣医療チーム）が必要か。
- ・病院から人員を提供する場合、その間、院を閉めるところもでてくるので、補償をお願いしたい。
- ・JMAT（日本医師会災害医療チーム）もぜひ活用いただきたい。